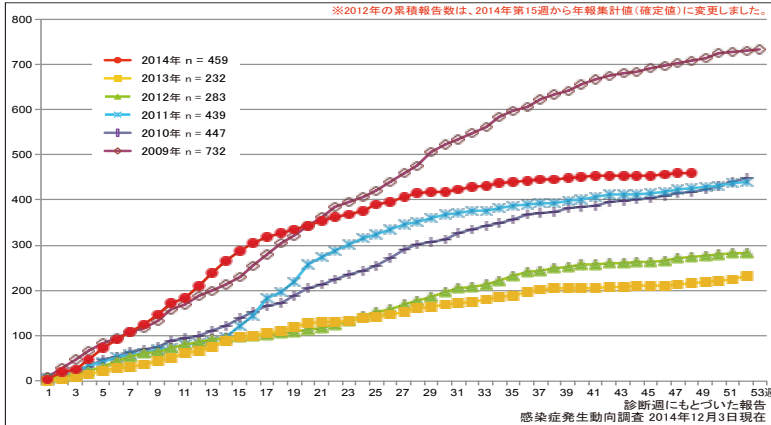


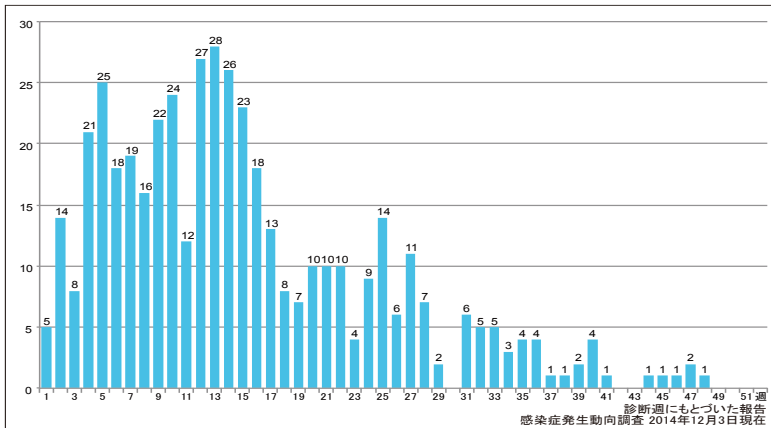
亜急性硬化性全脳炎に対するリバビリン治療の効果について

研究分担者：熊本大学医学部附属病院小児科 野村恵子

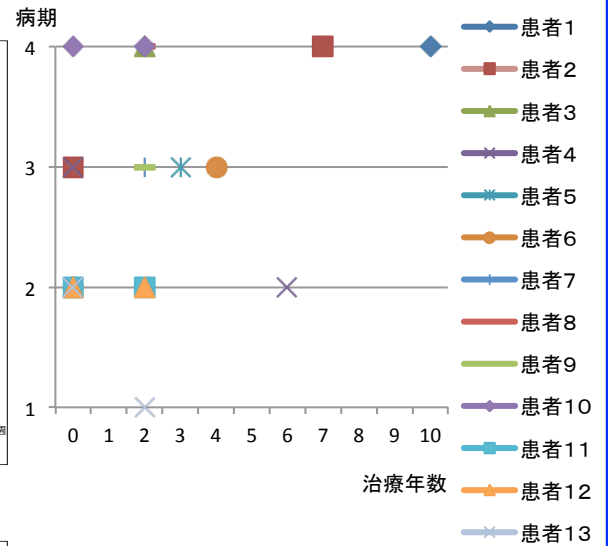
1. 麻疹累積報告数の推移 2009～2014年(第1～48週)
Cumulative number of measles cases by week, 2009-2014 (week1-48)
(based on diagnosed week as of December 3, 2014).



2. 週別麻疹報告数 2014年 第1～48週(n=459)
Weekly measles cases from week 1 to week 48, 2014 (based on diagnosed week as of December 3, 2014).



3. リバビリン治療実施年数と病期の変化



解説

- 2014年は、2012年、2013年と比較して麻疹罹患者数が増加している。亜急性硬化性全脳炎の撲滅のためには、引き続き麻疹の予防が重要と考えられる。
- リバビリン治療を1年以上継続した患者13例の内、病期が改善したのは2例、病期が進行しなかったのは5例であった。
- 診療ガイドライン改訂へ向けて、治療継続の判断基準が一つの課題と考えられた。